

---

# 平成27年度 事業報告書・概要版

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

---



地方独立行政法人 神戸市民病院機構



1	神戸市民病院機構の概要	1
2	病院ごとの取り組み	
	神戸市立医療センター中央市民病院	6
	神戸市立医療センター西市民病院	16
3	優秀な職員の確保と人材育成	26
4	経営状況について	30
5	中央市民病院におけるPFI事業の円滑な推進・市関連病院との連携・ 神戸医療産業都市における役割	36



# 神戸市民病院機構

## ◆神戸市民病院機構の役割

神戸市民病院機構は、中央市民病院・西市民病院の2病院を運営しており、平成21年4月に、地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究並びに技術者の研修等の業務を行うことにより、市民の立場に立った質の高い医療を安全に提供し、もって市民の信頼に応え、市民の生命と健康を守ることを目的として設立されました。



## ◆概要

項目	
法人名	地方独立行政法人神戸市民病院機構
所在地	神戸市中央区港島南町2丁目1番地の1 1 市民病院前ビル3階
設立年月日	平成21年4月1日
役員数	12名
職員数	2,048名（平成28年3月31日現在）

## ◆役員名簿

（平成28年3月31日現在）

役職	氏名	備考
理事長	常勤 菊池 晴彦	
副理事長	常勤 橋本 信夫	
理事	常勤 坂田 隆造	中央市民病院長
理事	常勤 山本 満雄	西市民病院長
理事	常勤 山平 晃嗣	法人本部長
理事	非常勤 石原 享介	中期計画推進担当兼西市民病院担当
理事	非常勤 山岡 義生	京都大学名誉教授
理事	非常勤 新 尚一	神栄株式会社相談役 神戸商工会議所副会頭
理事	非常勤 鈴木 志津枝	神戸市看護大学長
理事	非常勤 中村 肇	財団法人阪神北広域救急医療財団理事長
監事	非常勤 藤原 正廣	弁護士(京町法律事務所)
監事	非常勤 岡村 修	公認会計士・税理士(岡村修公認会計士税理士事務所)

## 神戸市立医療センター中央市民病院

### ◆病院の特徴と役割

救命救急センターとして24時間365日体制での救急医療を提供し、脳卒中や急性心筋梗塞、交通外傷等、生命に関わるような重篤な患者を中心に、幅広く患者を受入れました。また、地域医療支援病院として地域医療連携の推進に取り組むとともに、高度医療機器の導入等を必要に応じで行い、神戸市全域の基幹病院として専門性の高い高度な医療の提供を行いました。



### ◆病院概要

項目	
所在地	神戸市中央区港島南町2丁目1番地の1
許可病床数	700床（うち感染症10床）
診療科	循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、感染症科、精神・神経科、小児科、新生児科、皮膚科、外科、移植外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、臨床病理科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急部、総合診療科
主な役割及び機能	<ul style="list-style-type: none"><li>・救命救急センター指定病院</li><li>・第1・2種感染症指定病院</li><li>・地域がん診療連携拠点病院</li><li>・臨床研修指定病院</li><li>・卒後臨床研修評価機構認定施設</li><li>・総合周産期母子医療センター</li><li>・災害拠点病院</li><li>・地域医療支援病院</li><li>・病院機能評価認定施設</li></ul>

### ◆病院の基本理念と基本方針

#### 【基本理念】

神戸市立医療センター中央市民病院は、神戸市の基幹病院として、市民の生命と健康を守るため、患者中心の質の高い医療を安全に提供します。

#### 【基本方針】

- ①患者の生命の尊厳と人権を尊重します。
- ②十分な説明に基づき、満足と信頼が得られる医療を安全に提供します。
- ③基幹病院としての機能を果たすため、高度・先端医療に取り組みます。
- ④24時間体制での救急医療を実践します。
- ⑤医療水準の向上を目指し、職員の研修・教育・研究の充実を図ります。
- ⑥地域の医療・保健・福祉機関との相互連携を進めます。

# 1 神戸市民病院機構の概要

## ◇◆数値目標の達成状況◇◆

□ : 年度目標達成

項目	H27年度実績	H27年度目標	H26年度実績
クリニカルパス適用率	63.8%	60.0%以上	59.9% (目標:60.0%以上)
紹介率	57.4%	55.0%以上	54.1% (目標:50.0%以上)
逆紹介率	111.8%	90.0%以上	111.8% (目標:70.0%以上)
単年度資金収支	▲1,435百万円	▲1,434百万円以下	1,375百万円 (目標:1,355百万円以上)
経常収支比率	99.7%	100.1%以上	100.1% (目標:100.2%以上)
病床利用率	92.5%	93.8%以上	92.9% (目標:93.5%以上)
給与費比率	46.3%	47.0%以下	45.8% (目標:45.2%以下)
材料費比率	30.5%	28.7%以下	29.8% (目標:29.0%以下)
経費比率	17.6%	18.5%以下	18.7% (目標:20.0%以下)

## ◇◆主な指標の推移◇◆

項目	H27年度実績	H26年度実績	前年度差
入院単価	93,246円	90,438円	2,808円
外来単価	17,717円	16,869円	848円
延入院患者数	233,611人	233,978人	▲367人
延外来患者数	478,070人	469,642人	8,428人
入院患者数/日	638人	641人	▲3人
外来患者数/日	1,967人	1,925人	42人
病床利用率(在院ベース)	92.5% (84.0%)	92.9% (84.6%)	▲0.4% (▲0.6%)
新入院患者数	21,559人	20,983人	576人
初診外来患者数	86,688人	87,345人	▲657人
平均在院日数	10.8日	11.2日	▲0.4日
手術件数	12,544件	12,261件	283件
医業収支比率	96.5%	96.1%	0.4%

## 神戸市立医療センター西市民病院

### ◆病院の特徴と役割

市街地西部（兵庫区、長田区、須磨区）の中核病院として、高水準の標準的医療を提供するとともに、内科系・外科系の24時間365日の救急医療体制を継続し、地域住民が安心して暮らせる救急医療の提供を行いました。

また、平成28年1月には、乳腺外科専門医の診察による「乳腺外科」を新設し、乳腺疾患の専門化及び高度化に対応する体制を整備しました。



### ◆病院概要

項目	
所在地	神戸市長田区一番町2丁目4番地
許可病床数	358床
診療科	消化器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、総合内科、臨床腫瘍科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、臨床病理科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科
主な役割及び機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2次救急対応</li> <li>・地域医療支援病院</li> <li>・高齢者医療の充実</li> <li>・臨床研修指定病院</li> <li>・神戸市災害対応病院</li> <li>・がん診療連携拠点病院に準じる病院</li> <li>・在宅医療の充実</li> <li>・病院機能評価認定施設</li> </ul>

### ◆病院の基本理念と基本方針

#### 【基本理念】

神戸市立医療センター西市民病院は、地域の中核病院として、市民の生命と健康を守るために、安全で質の高い心のこもった医療を提供します。

#### 【基本方針】

- ①患者の人権を尊重し、患者中心のチーム医療を推進します。
- ②安全管理を徹底し、患者に満足される医療を提供します。
- ③救急医療の充実を図り、災害時の医療にも備えます。
- ④市民病院群の連携を図り、高度・専門医療を充実させ、急性期病院を維持します。
- ⑤地域社会との連携を強化し、在宅医療を支援します。
- ⑥医療従事者の職務の研鑽を深め、医療水準の向上に努めます。
- ⑦職員の経営参画意識を高め、病院の健全な財政運営に努めます。



# 1 神戸市民病院機構の概要

## ◇◆数値目標の達成状況◇◆

  : 年度目標達成

項目	H27年度実績	H27年度目標	H26年度実績
クリニカルパス適用率	45.0%	50.0%以上	49.8% (目標:50.0%以上)
紹介率	46.7%	50.0%以上	41.7% (目標:50.0%以上)
逆紹介率	89.2%	70.0%以上	91.3% (目標:70.0%以上)
単年度資金収支	▲383百万円	▲187百万円以下	80百万円 (目標:68百万円以上)
経常収支比率	98.1%	100.1%以上	100.3% (目標:100.0%以上)
病床利用率	83.5%	90.0%以上	87.7% (目標:90.5%以上)
給与費比率	57.4%	56.0%以下	56.3% (目標:55.0%以下)
材料費比率	25.0%	23.6%以下	23.3% (目標:24.3%以下)
経費比率	16.6%	16.9%以下	16.3% (目標:17.6%以下)

## ◇◆主な指標の推移◇◆

項目	H27年度実績	H26年度実績	前年度差
入院単価	53,385円	53,169円	216円
外来単価	13,628円	12,145円	1,483円
延入院患者数	109,352人	114,541人	▲5,189人
延外来患者数	217,182人	236,348人	▲19,166人
入院患者数/日	299人	314人	▲15人
外来患者数/日	894人	969人	▲75人
病床利用率(在院ベース)	83.5%(76.7%)	87.7%(80.6%)	▲4.2%(▲3.9%)
新入院患者数	8,934人	9,140人	▲206人
初診外来患者数	23,081人	24,744人	▲1,663人
平均在院日数	12.3日	12.5日	▲0.2日
手術件数	2,899件	3,117件	▲218件
医業収支比率	92.1%	95.3%	▲3.2%

# 神戸市立医療センター中央市民病院

## 1. 市民病院としての役割の発揮

### (1) 救急医療

- ①救命救急センターとして、24時間365日体制の救急医療の提供を継続し、**救急外来患者数及び救急入院患者数が増加**しました。また、救命率向上の一層の強化を図るため、ドクターカーの出勤や、ヘリコプターによる救急搬送患者の受入れについても継続しました。**(グラフ1、写真1)**
- ②受入れられなかった救急車搬送患者については、件数と理由について検証し、院内での会議等において報告を行い、引き続き**高い応需率を維持**しました。
- ③専門の医師が直接対応する脳卒中、胸痛、産科、小児科の**ホットライン(※1)**を継続し、救急患者の円滑な搬送及び受入れを行いました。
- ④他の医療機関からの搬送依頼のうち3次救急相当の患者については、平成28年1月から、直接救急科の医師が受ける対応を開始し、**受入れ体制の充実**を図りました。

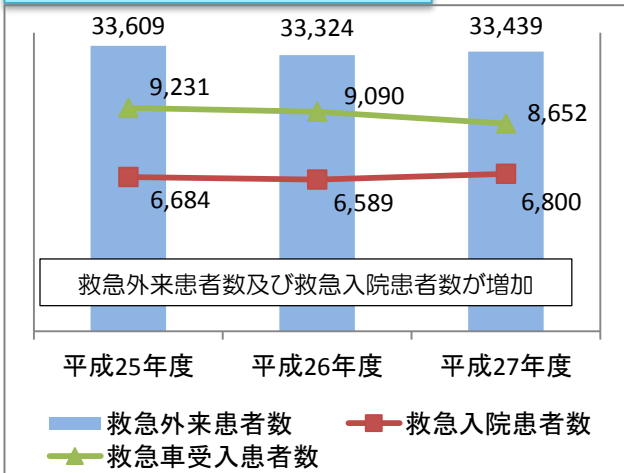
### (2) 小児・周産期医療

- ①総合周産期母子医療センター(※2)として、関係診療科との連携強化や最新の医療技術を用いて救命に努める等、**ハイリスク出産への対応**を行いました。**(グラフ2)**
- ②**安定した小児・周産期医療の提供を継続**するため、週1回の症例検討を行い、医療技術の向上に努めました。また、夜間や休日は必ず小児科医が当直待機し、救急患者の対応処置にあたる体制を継続しました。**(グラフ3)**
- ③連携登録施設(産科・産婦人科で43施設)について、患者の紹介・逆紹介、救急搬送の受入れを積極的に行い、患者情報の共有化を図りました。

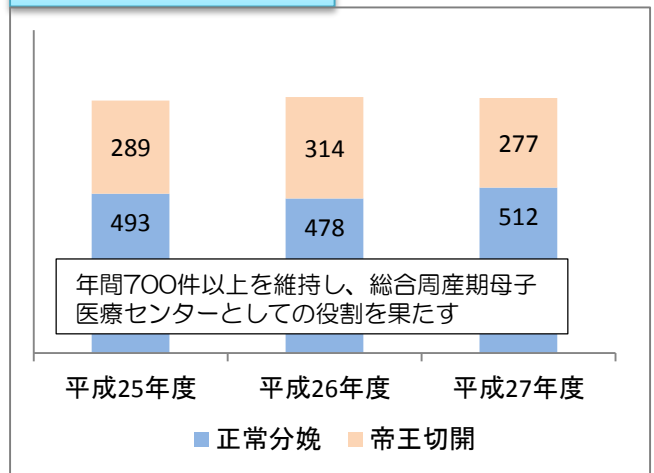
### (3) 災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療

- ①災害拠点病院として、非常時に対応できるよう、**院内で災害訓練を行い職員の意識向上**を図りました。また、危機管理のあり方について、危機管理体制整備会議等で議論を行い、体制を整備しました。**(写真2)**
- ②感染症医療については、新興感染症(※3)が発生した場合に、市・県及び地域の医療機関と連携を図れる体制を継続するとともに、大都市の感染症指定医療機関が集まる会議に出席し、1類感染症患者の死亡時の取扱いや体制等について意見交換を行いました。
- ③韓国で発生した中東呼吸器症候群(MERS)や南アメリカでのジカ熱の流行を受け、院内マニュアルの整備を行いました。また、個人防護具の着脱訓練を実施し、**患者受入れのための体制を整備**しました。

グラフ1 救急患者数の状況(人)



グラフ2 分娩件数(件)



グラフ3 小児科患者数の状況(人)

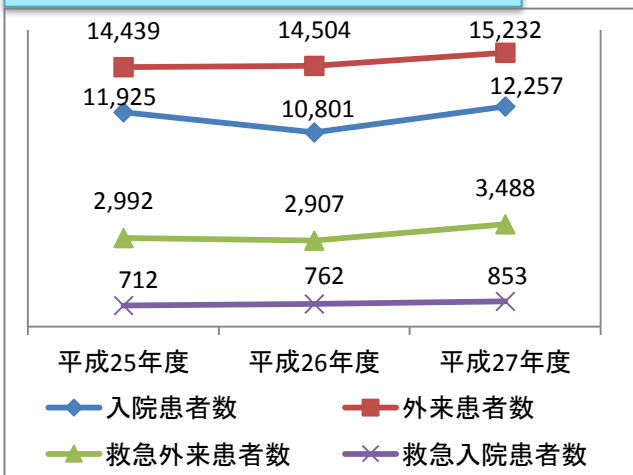


写真1 ドクターカー

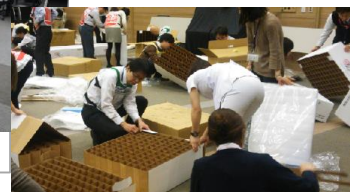


救急救命に必要な医療器材を搭載し、医師、看護師、救急救命士(研修生)が乗務して、救急医療現場に急行しました(平成27年度は200回出動)。

写真2 訓練の様子



災害対策本部の様子



ダンボールベッド設置風景

### ◆用語解説◆ (逆紹介はP25参照)

#### ※1 ホットライン

地域医療機関からの問合せに対し、病院の代表電話とは別に専門の医師が直接対応することにより緊急入院や救急受診に迅速に繋ぐことができる回線。中央市民病院においては、脳卒中、胸痛、産科、小児科がある。

#### ※2 総合周産期母子医療センター

重い妊娠中毒症や切迫早産、脳出血等危険性の高い妊婦と新生児に24時間体制で対応するため、都道府県が指定する施設。

#### ※3 新興感染症

かつては知られていなかった、新しく認識された感染症で、国際的に公衆衛生上の問題となる感染症のこと。エイズ、エボラ出血熱等がある。

# 神戸市立医療センター中央市民病院

## 2. 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

### (1) 高度医療及び専門医療の充実並びに医療需要に応じた医療の提供

- ①手術支援ロボット「ダヴィンチ」やTAVI（経カテーテル大動脈弁治療）による高度医療機器を使用した治療を継続し、実施件数が増加しました。また、ECMO（体外式膜型人工肺による治療）プロジェクトに引き続き参加し、重傷患者搬送のシミュレーションを行う等、受入れ体制を整備しました。
- ②高度医療機器による検査や患者に負担の少ない手術に引き続き積極的に取り組み、検査件数や手術件数が増加しました。また、腹腔鏡手術や胸腔鏡手術等、高度かつ患者に負担の少ない手術に積極的に取り組みました。（グラフ1、グラフ2、表1）

### (2) 5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病及び精神疾患）への対応

- ①がん診療オープンカンファレンスを引き続き開催するとともに、がん診療体制や相談業務体制の強化を継続し、地域がん診療連携拠点病院（※1）として、がん診療の中心的役割を担いました。（写真1、表2）
- ②免疫チェックポイント阻害剤（※2）であるオプジーボが非小細胞肺癌で保険適用されたことに伴い、平成27年12月に、医師、薬剤師、看護師、MSWで構成された肺癌チームを結成し、安全に導入できるよう検討を行いました。
- ③平成28年度に予定している精神科身体合併症病棟の立ち上げに向けてのワーキングを実施し、他の精神科病院の視察を行う等、検討を行いました。

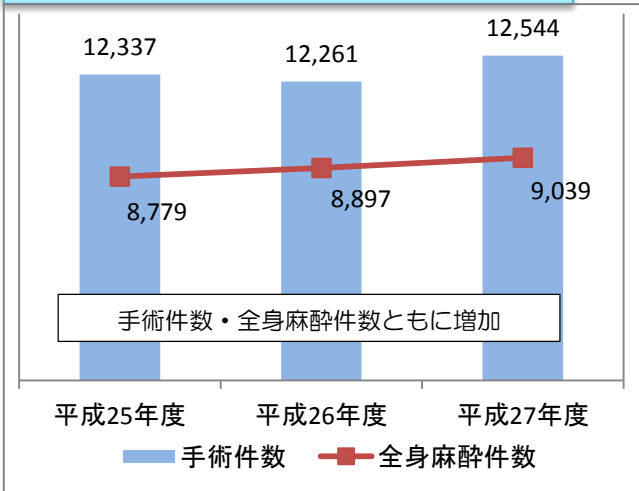
### (3) チーム医療の実践及び専門性の発揮

- ①院内の多職種で構成されるチームにおいて、定期的にミーティングや院内の巡回を実施し、コミュニケーションを図ったほか、各職種がそれぞれの専門性を発揮し、より良い医療の提供を行いました。（表3）
- ②児童虐待・成人虐待における検討チームにおいて、看護師・MSWの専門性を活かしながら対応策について議論するとともに、こども家庭センターとの連携のもと、虐待疑い事例に対する院内外の円滑な連携及び手順の検討を行いました。

### (4) 臨床研究及び治験（※3）の推進

- ①臨床試験データマネジャーを1名採用し、臨床研究のデータセンターの立ち上げに向け検討を行うとともに、がん専門薬剤師とデータマネジャーの共同により、がん臨床支援体制の構築を行いました。

グラフ1 手術件数及び全身麻酔件数(件)



グラフ2 検査件数(件)

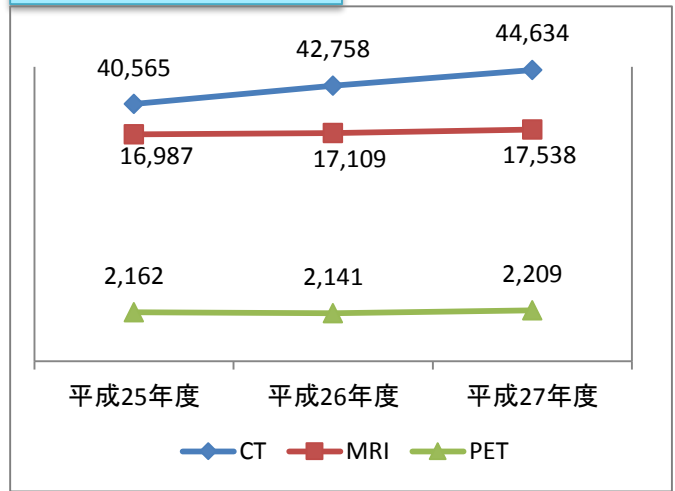


表1 内視鏡手術件数(件)

H25	H26	H27
2,358	2,326	2,812

写真1 がん診療オープンカンファレンス



表2 がん内視鏡下手術件数(件)

H25	H26	H27
218	370	390

表3 院内の主なチーム

- ・NST (栄養サポートチーム)
- ・褥瘡対策チーム
- ・せん妄チーム
- ・呼吸管理サポートチーム
- ・精神科リエゾンチーム
- ・ICT (感染管理チーム)
- ・摂食嚥下サポートチーム
- ・口腔ケアチーム
- ・緩和ケアチーム
- ・フットケアチーム
- ・HIV/AIDSサポートチーム

### ◆用語解説◆ (MSWはP27、チーム医療はP19参照)

#### ※1 地域がん診療連携拠点病院

全国どこでも質の高いがん診療が受けられるよう、がん診療の均てん化（地域間の診療レベルの格差を無くし、質の高いがん医療を提供すること）のために、地域におけるがん診療連携を推進するとともに中核となる病院。厚生労働省が、都道府県からの推薦を受け、整備指針に基づき指定するもの。中央市民病院は平成19年1月に認定された。

#### ※2 免疫チェックポイント阻害剤

がん細胞が免疫細胞の攻撃力を抑制するはたらきを阻害し、免疫細胞みずからの攻撃力を再活性する薬剤。

#### ※3 臨床研究、治験

臨床研究とは、治療方法の改善や病気の原因の解明、患者の生活の質の向上などのために行う医学研究のこと。また、治験とは、厚生労働省から医薬品、医療機器、再生医療等製品として承認を受けるために行い、新医薬品等の開発過程において、実際の患者等で有効性や安全性について調べる治療を兼ねた試験のこと。



# 神戸市立医療センター中央市民病院

### 3. 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

#### (1) 医療の質を管理することの徹底

①クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表）委員会内の「アウトカム・バリエーション(※1)分析チーム」において、パスの項目等を見直し、**医療の質が分析できるパス改訂の検討を開始**しました。また、講演会を行うとともに、クリニカルパス大会を引き続き開催し、大会の中でアウトカム・バリエーション評価の実態分析等を行い、**医療の質の標準化**を図りました。

（グラフ1、図1）

②不備のある退院サマリ(※2)については、診療科部長と記載者に1週間以内に是正を依頼する日常監査を行った結果、是正依頼件数の減少が図られました。また、患者への説明同意書については、各診療科に改善依頼を行う質的監査を実施し、監査の結果、説明同意書のサイン漏れなどは見受けられず、適切に記載されていることが把握できました。

#### (2) 医療安全対策及び医療関連感染対策の強化

①院内で発生したヒヤリ・ハット、インシデント、アクシデントに関する検討会を228回実施し、原因の調査や再発防止に向けた取り組みについて検討を行いました（写真1）。また、平成27年10月より開始された**医療事故調査制度**について、院内指針の整備や講演会を実施する等、職員への情報提供を行うとともに、**報告システムの構築**を行いました。

②RRS（院内救急対応システム）を院内全体に導入しました。**院内CPA（心肺停止）発生件数については、年々減少**してきており、RRS導入効果が得られました。

③感染管理チームによる巡回を実施するとともに、各種サーベイランス(※3)ラウンドを行い、アウトブレイク(※4)等の早期発見に取り組みました。

④院内での必要な情報や最新情報等については、定期的に職員への情報提供を行うとともに、院内研修会を積極的に開催し、職員の知識向上に努めました。（表1）

#### (3) 法令及び行動規範の遵守（コンプライアンス）の徹底

①コンプライアンス推進本部会議を開催するとともに、各所属においてコンプライアンス研修を実施し、**全職員がコンプライアンスの重要性について認識・実践するための対応を継続**しました。また、不祥事件の再発防止と服務規律の徹底を図るため、機構として、懲戒処分の指針を改定しました。

②情報セキュリティ監査や研修を引き続き開催し、情報セキュリティの強化を図りました。また、平成27年度は、新たに職員を対象に標的型攻撃メールについての訓練メールの送付やワークショップを開催し、**情報セキュリティの意識向上のための取り組みを強化**しました。（図2）

③監事監査及び会計監査人監査を引き続き実施したほか、平成27年度は、会計検査や財政援助団体監査が実施され、一部指摘を受け、改善を行いました。おおむね良好との結果でした。

グラフ1 クリニカルパス件数(件)及び適用率(%)

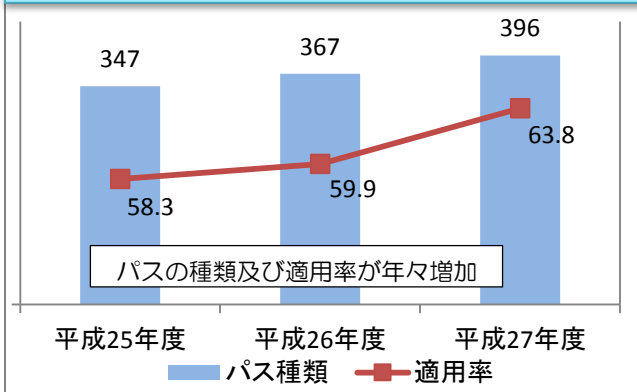


図1 クリニカルパス大会



19診療科、275名(過去最高)が参加し、参加者の投票による最優秀賞、優秀賞を選定しました。

結果

- 最優秀賞 呼吸器内科
- 優秀賞 整形外科 頭頸部外科

表1 職員研修会の主なテーマ

【医療安全】

- ・CVカテーテル挿入研修会
- ・医療ガス講習会
- ・MRI高磁場体験 等

合計105回、延2,041名が参加しました。(動画配信含む)

【感染対策】

- ・感染性胃腸炎患者の感染対策
- ・HIVについて
- ・嘔吐物の処理 等

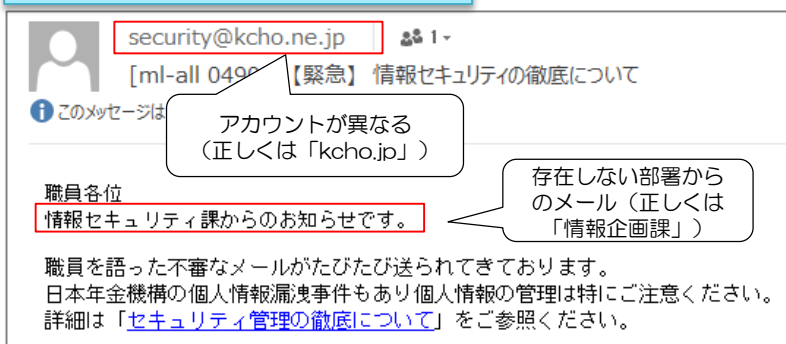
合計80回、3,636名が参加しました。

写真1 医療安全の取り組み



ともにチームの一員であるという意識を持つことを目的に、患者と医療者約200名が参加して、「医療安全の集い」を開催しました。

図2 情報セキュリティ訓練メール



◆用語解説◆ (クリニカルパス、インシデント、アクシデント、医療事故調査制度はP21参照)

※1 アウトカム・バリエーション

アウトカムとは、クリニカルパスの中で、患者の状態が当初想定していた望ましい状態となること。バリエーションとは、クリニカルパスに示された治療計画から逸脱した状態のこと。

※2 退院サマリ

入院から退院までの経過・治療内容を要約し、最終診断名と転帰が記載されたもの。

※3 サーベイランス

疾病対策に必要なデータを収集・分析・解釈し、その結果を迅速かつ定期的に還元するために、疾病の発生状況やその推移等を継続的に監視すること。疾病の予防と制御に用いられる。

※4 アウトブレイク

感染症等が爆発的に拡がり、急激な患者の増加や病気が集団発生すること。

# 神戸市立医療センター中央市民病院

## 4. 市民及び患者とともに築くやさしい病院

### (1) 患者のニーズに応じたサービスの提供

- ①患者満足度調査の実施や意見箱の設置により、**来院者からの要望や意見等の把握**に取り組み、適宜改善を行うとともに、入院患者全員に「退院時アンケート」を実施し、患者ニーズの把握に取り組みました。（グラフ1）
- ②待ち時間の短縮を図るため、診察や採血受付時間を早める運用を継続するとともに、患者から要望の多かった飲食スペースの拡張を行う等、**待ち時間を快適に過ごせるような取り組み**を行いました。（写真1）
- ③入院患者やその家族等を対象に、朗読や合唱の院内コンサートを引き続き実施したほか、小児科病棟において、ボランティアによるマジックやおはなし会を開催し、入院中の療養環境の向上を図りました。
- ④案内表示や外来パンフレットの多言語化を行うとともに、外国語に対応できる職員の配置を継続しました。また、通訳者が診察や検査に同行する医療通訳制度を引き続き活用し、**外国人患者が安心して受診できる体制を継続**しました。（表1）
- ⑤入院前検査センター（※1）において、患者に対して、看護師、薬剤師、MSW等が連携して支援を行うことで、入院における安心感及び安全性の向上に取り組みました。

### (2) 市民及び患者へ開かれた病院

- ①患者及び一般市民を対象とした広報誌「しおかぜ通信」を発行し、中央市民病院の診療情報や医療スタッフの役割、新しい取り組みについて情報提供を行いました。また、**病院のホームページについて**、随時新しい情報の追加・更新を行い、市民等に分かりやすい情報の提供に努め、**アクセス回数が増加**しました。
- ②がん相談室に相談員が常駐し、がん患者やその家族からの相談に応じる「がん相談開放日」や、中央市民病院のがん患者やその家族を対象とした「がんサロン（※2）」を継続するとともに、様々ながんをテーマにしたがん市民フォーラムを開催し、**がん患者支援を強化**しました。また、がん患者の就労支援に向けて、他病院への視察を行う等、具体的な支援について検討しました。（写真2）
- ③コンビニエンスストアの弁当を中央市民病院の管理栄養士が監修し、適切にエネルギー、減塩、バランス（野菜量の確保）が考慮された食事を通して、市民等に情報発信を行いました。（写真3）
- ④医師・看護師・コメディカルが中心となり、患者家族や市民も対象とする患者向け教室を引き続き開催しました。（表2）



グラフ1 患者満足度調査結果(%)

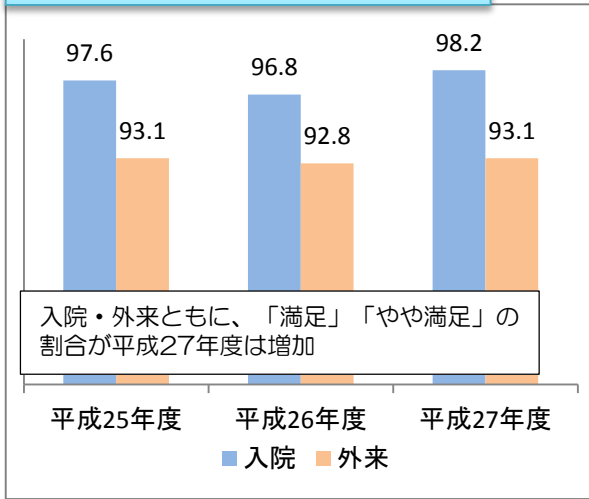


写真1 拡張した飲食スペース



写真2 がん相談開放日(イメージ)



開放日は、自由に入出入りして、本や資料等が閲覧できるほか、様々な相談に応じるため、相談員が常駐しました。

表1 医療通訳派遣実績(件)

H25	H26	H27
49	84	148

写真3 コンビニエンスストアとの共同弁当



平成27年1月より開始し、平成27年度末までに13種類の弁当を監修しました。



※主な言語  
中国語、英語

案内表示には、英語、中国語、韓国語を表記

表2 患者向け教室

【平成27年度の実施状況】

- ・糖尿病教室 8回
- ・心臓病教室 10回
- ・腎臓病教室 8回
- ・消化器病教室 6回

合計32回開催し、724名の参加がありました。

### ◆用語解説◆ (MSWIはP27参照)

#### ※1 入院前検査センター

患者が安心して入院し、治療が円滑に受けられるように、入院前に必要な検査予約や検査の日程調整、薬剤師による持参薬のチェック、看護師による入院前検査から退院までのオリエンテーション等を行っている。

#### ※2 がんサロン

がん患者や家族などが病院等が集まって、相互交流や情報交換など、自由に語り合い、不安の軽減や治療への活力、療養生活の知恵を得たり、がん医療の最新情報などを学習したりする場のこと。

# 神戸市立医療センター中央市民病院

## 5. 地域医療連携の推進

### (1) 地域医療機関との更なる連携

- ①地域医療連携センターにかかりつけ医相談窓口を設置し、患者支援機能の充実を図るとともに、かかりつけ医を持つことについて、市とも協力をしながら患者や市民に広く周知を行い、**医療機関の役割に応じた患者の紹介・逆紹介の推進**に引き続き取り組みました。(グラフ1、図1)
- ②FAX予約患者については、待ち時間なく診察が受けられるよう優遇措置を徹底するとともに、FAX予約の利用及び簡単な申し込みについて地域医療機関に周知を行いました。FAX予約の積極的な利用について呼びかけを行った結果、**FAX予約件数が増加**しました。また、CTやMRI等の高度医療機器を使用した検査についても、FAX予約による受付を行い、地域医療機関への利用を推進しました。(表1)
- ③各診療科、チームにおいて、積極的にオープンカンファレンス(※1)を開催し、地域の医療従事者に情報提供を行いました。また、「地域連携懇話会」を開催し、地域医療機関との交流を図りました。さらに、地域医療機関への訪問や来院時の面談を積極的に行い、**地域との連携強化**を図りました。(写真1、表2、図2)
- ④引き続き、連携登録医との連携を強化し、逆紹介の推進に取り組みました。また、中央市民病院のホームページに登録医の一覧を掲載し、公式ホームページがある医療機関については、中央市民病院のホームページから閲覧できるようリンクの設定を行い、患者のかかりつけ医探しの利便性の向上を図りました。(表3)
- ⑤神戸市民間病院協会加盟病院への急性期、回復期、慢性期の転院については、共通の患者シートを活用し、円滑な転院を図るとともに、さらなる病病連携(※2)の強化のため、中央区医師会の呼びかけで、区内の病院の地域連携部門の連絡調整や情報交換を行う、神戸市中央区地域連携部門連絡協議会に参加しました。

### (2) 在宅医療への支援及び在宅医療との連携の強化

- ①在宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等との連携を図り、退院前カンファレンスを積極的に実施しました。また、各区でのネットワーク会議や在宅医療推進協議会等に積極的に参加し、**地域の在宅医療・介護の担い手との連携強化**に取り組みました。
- ②地域医療連携センターに薬剤師の配置を継続し、患者のアレルギーや持参薬・常用薬、退院直前の薬剤情報を医療機関に提供しました。また、平成27年10月より、薬剤情報提供書の作成対象医療機関数を拡大し、後方支援体制を強化しました。

グラフ1 紹介率・逆紹介率(%)

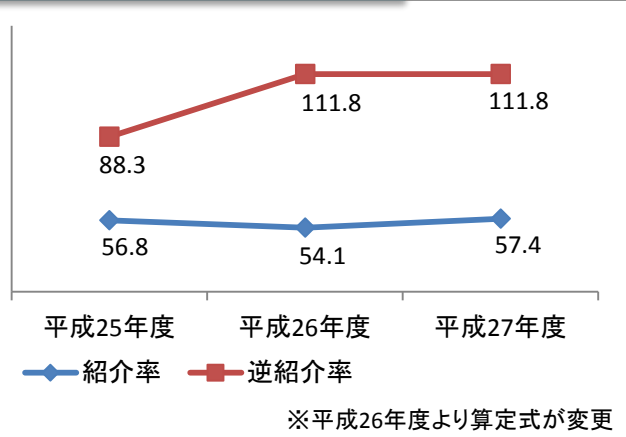


図1 患者への周知

**院内周知**

入院や手術が必要になったら

日常的診察  
かかりつけ医

紹介状  
FAX予約

連携  
協力

紹介状

専門的な治療や  
特殊な検査  
中央市民病院

症状が安定したら

広報紙等も活用し、市民に幅広く周知を行いました。

**中央市民病院の受診は紹介状・FAX予約で**

中央市民病院では、待ち時間による患者の負担を少しでも軽減するため、外来診察は予約制を推進しています。日頃、診察や健康管理を行っている医師(かかりつけ医)に紹介状の作成とFAX予約を依頼すれば、円滑に診察が受けられます。まずは、かかりつけ医からFAX予約を入れてもらいましょう。

中央市民病院地域医療連携センター ☎302-4321(4)

広報紙KOBÉ

写真1 「地域連携懇話会」の様子



平成27年11月19日に開催し、院外154名を含め、251名が集まりました。

表2 オープンカンファレンス実施状況

- ・脳卒中リハビリテーション連携研究会
- ・小児救急医療セミナー
- ・腹部超音波カンファレンス
- ・びまん性肺疾患勉強会 等

合計48回開催し、参加者は2,912名(うち院外1,845名)でした。

図2 医療機関向け広報誌

神戸市立医療センター  
中央市民病院ニュース

編集：神戸市立医療センター中央市民病院 地域医療連携センター  
発行：1996年4月号(神戸市立医療センター中央市民病院)  
電話：〒650-0001 神戸市東灘区中央市民病院 1F  
〒650-0001 神戸市東灘区中央市民病院 1F  
〒650-0001 神戸市東灘区中央市民病院 1F  
〒650-0001 神戸市東灘区中央市民病院 1F

第53号の主なトピックス

- ・脳神経外科の最新
- ・手術科担当医が活躍の場
- ・5G 7G 医療現場での活用
- ・がん診療連携拠点病院の役割
- ・がん診療連携拠点病院の役割
- ・がん診療連携拠点病院の役割

**脳神経科・内分沁内科部長就任のご挨拶** 脳神経科・内分沁内科部長 松岡 康樹

この度、平成27年11月19日付で脳神経科・内分沁内科部長に就任いたしました松岡康樹です。これまで当院に在籍してからの時間、自分の役割を先任(地産地消型センター長)の完で職務の遂行に努めてまいりました。

当科は、甲斐診療科の発展に貢献できる医師の下でも活躍の場を確保し、年間の診療の目標を達成してまいります。また、内分沁内科と連携して、診療の向上、可能な範囲での地域医療・連携の推進に努めてまいります。今後ともご協力をお願いいたします。ご紹介の場はFAX予約をお願いいたします。

中央市民病院の取り組みやカンファレンスの情報を発信しました。(年4回発行)

**腎臓内科部長就任のご挨拶** 腎臓内科部長 宮本 昭弘

平成27年11月19日付で腎臓内科部長に就任いたしました宮本昭弘です。

腎臓内科では、血液透析(人工透析)から人工透析まで、腎臓に関わる様々な疾患に幅広く対応しております。腎臓、心臓、呼吸器、糖尿病、高血圧、脂質異常症(肥満症)、腎臓病、腎臓病などに関する様々な疾患を診療しております。また、腎臓病の患者数は200万人と増加しており、新たな治療法も出てきています。腎臓の病気は、早期発見、適切な治療、早期治療が重要です。腎臓病の予防のために、日常生活の100分の1の努力を必要に応じて積極的に実施して、治療に反映いたします。また、腎臓病は、糖尿病、高血圧、脂質異常症などと一緒に治療する必要があります。また、腎臓病は、糖尿病、高血圧、脂質異常症などと一緒に治療する必要があります。また、腎臓病は、糖尿病、高血圧、脂質異常症などと一緒に治療する必要があります。

表1 FAX予約件数(件)

H25	H26	H27
12,931	13,410	15,034

表3 連携登録医の推移(人)

H25	H26	H27
1,083	1,171	1,230

◆用語解説◆ (逆紹介はP25参照)

※1 オープンカンファレンス

院内だけでなく、地域の医療機関の医師等も参加できる講演会のこと。

※2 病病連携

病院と病院の役割分担のもと、各施設の機能を十分に活用した連携を行い、患者のニーズに合った医療を提供するシステムのこと。

# 神戸市立医療センター西市民病院

## 1. 市民病院としての役割の発揮

### (1) 救急医療

- ①平成25年9月から全面再開を果たした毎日24時間救急医療を着実に継続し、**救急入院患者数及び救急車の受入患者数が増加**しました。(グラフ1)
- ②受入れられなかった救急車搬送患者については、理由の把握や分析を行うとともに、院内の会議等において報告を行い、「断らない救急」の方針徹底や開業医からの紹介患者を断らないよう周知を行い、**応需率が上昇**しました。
- ③初期研修医のための外科系救急患者の対応指針を作成するとともに、外科系救急患者の初療研修を行い、初療対応の充実を図りました。

### (2) 小児・周産期医療

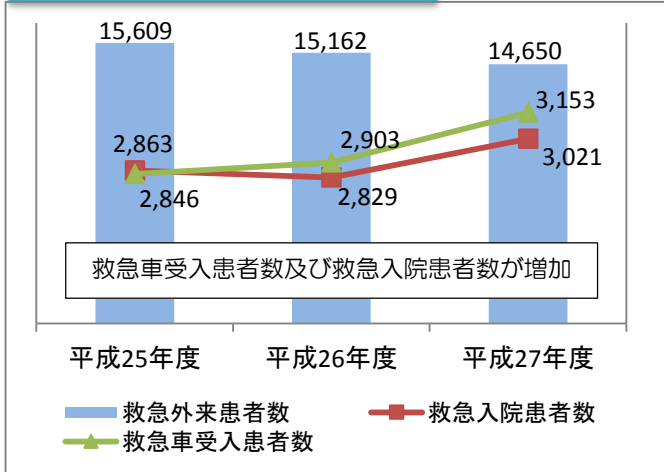
- ①周産期センターを中心として、引き続き**周産期医療を安定的に提供**し、正常分娩を中心にリスクの高い分娩にも対応を行いました。また、正常分娩を助産師が行う「院内助産」を、平成29年度中に予定している既存施設の改修に併せて実施するため、検討を開始しました。(グラフ2)
- ②小児科の二次救急輪番(※1)の担当を継続し、平成27年11月より、**小児救急輪番数を月6回から月6～8回に増加**し、地域の小児救急医療に貢献しました。(グラフ3)
- ③アレルギー外来や小児循環器外来等の小児科における専門外来を継続するとともに、平成27年度には、乳幼児突然死症候群の発生につながる無呼吸を察知し、速やかな蘇生措置を行うための無呼吸アラームを2台増設し、診療体制の充実を図りました。

### (3) 災害医療及び感染症医療その他の緊急時における医療

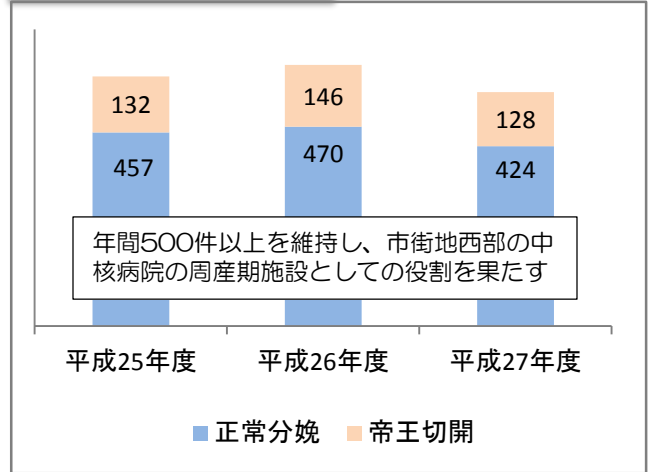
- ①平成27年1月に指定を受けた「神戸市災害対応病院(※2)」として、**院内の災害対応マニュアルを整備**するとともに、長田区在宅推進協議会・災害対策部会に参加し、災害対応病院としての取り組みの紹介や訓練に参加する等、**地域の関係団体との連携を強化**しました。
- ②災害対策の検討・実践を行う「災害対策チーム」を中心に、職員が災害その他緊急時に速やかに対応するため、各種訓練や研修会を実施し、**災害に関する職員の意識向上**を図りました。また、医師や看護師等を対象に行う心肺蘇生法トレーニングを継続して実施しました。(写真1・2)
- ③感染症医療については、感染管理認定看護師の専従配置を継続し、感染管理室を中心に、院内マニュアルの改訂等、感染防止に積極的に取り組むとともに、新興感染症拡大の際には、中央市民病院を中心に、県や市とも連携を図れる体制を継続しました。



グラフ1 救急患者数の状況(人)



グラフ2 分娩件数(件)



グラフ3 小児科患者数の状況(人)

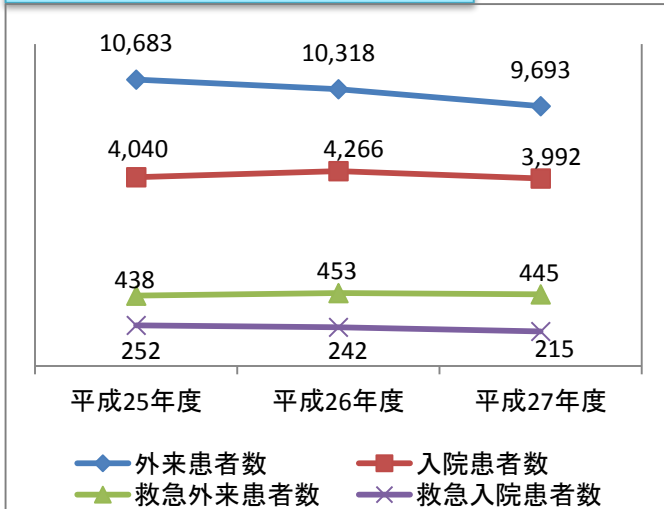


写真1 夜間想定自衛消防隊訓練



訓練終了後は、振り返り検証会を行うとともに、長田消防署からの講評がありました。

写真2 心肺蘇生法トレーニングの様子



年4回開催し、医師・看護師全員の受講を目指しています。平成27年度は53名受講しました。

### ◆用語解説◆ (新興感染症はP7参照)

#### ※1 救急輪番

地域内の病院群が共同連帯して、輪番制方式により、休日や夜間等における救急患者の診療を受入れる体制のこと。

#### ※2 神戸市災害対応病院

兵庫県が指定する、災害時に被災患者の受入・治療や救護班の派遣等を行う災害拠点病院に準じ、市が設置する救護所への備蓄医薬品や衛生資材等の提供、避難所・福祉避難所への医療提供などの役割を担う病院。

# 神戸市立医療センター西市民病院

## 2. 高度医療及び専門医療の充実並びに医療水準向上への貢献

### (1) 高度医療及び専門医療の充実並びに医療需要に応じた医療の提供

①平成27年10月に手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、内視鏡手術の安全性の向上と患者の負担軽減を図りました。また、内視鏡システムを更新し、より安全で負担の少ない手術が行える環境を整備するとともに、平成26年度に増設したCTを活用し、高精度で短時間で検査が可能な大腸検査を平成28年2月より開始し、検査体制の充実を図りました。

(写真1、表1、表2)

②全病棟への薬剤師の配置を継続し、薬物治療の安全性を高めるため、医薬品の管理を徹底するとともに、処方薬の一包化(※1)や退院患者への服薬指導を強化する等、患者サービスの向上にも取り組みました。また、医薬品に関する情報を正確に入手し、医師等からの問い合わせにも迅速に対応するとともに、治療の円滑化や業務の効率化を図りました。(表3)

③乳腺疾患の診療の専門化及び高度化に対応するため、平成28年1月に「乳腺外科」を新設し、乳腺外科専門医による診療を開始しました。

### (2) 5疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病及び精神疾患)への対応

①「がん診療連携拠点病院に準じる病院」として、外来化学療法等のがん治療を充実するとともに、「がん看護相談室」を毎日実施し、がん治療への精神的支援を積極的に行いました。

②糖尿病合併症の予防等のため、糖尿病教室を開催するとともに、病院と診療所が協力して糖尿病患者の治療にあたるKobeDMnet(神戸糖尿病地域連携)において引き続き連携実績を上げました。(写真2)

### (3) チーム医療(※2)の実践及び専門性の発揮

①院内の多職種で構成されるチームにおいて、定期的にミーティングや院内の巡回を実施し、コミュニケーションを図ったほか、各職種がそれぞれの専門性を発揮し、より良い医療の提供を行いました。(表4)

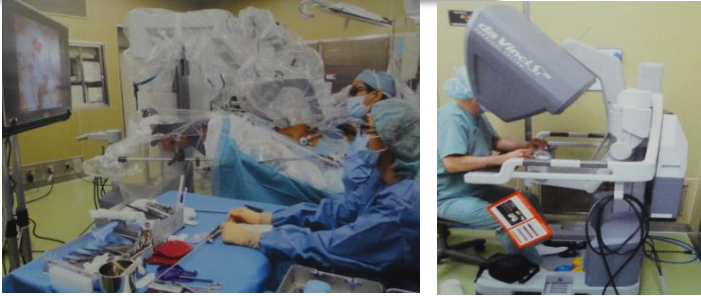
②入院患者の不安軽減等を目的に外科系の診療科で実施していた看護師による入院前オリエンテーション(※3)について、平成27年度は、消化器内科及び呼吸器内科においても運用を開始しました。

③平成26年度より半日で試行実施していた土曜日のリハビリテーションを、職員の増員や各職種との連携を強化し、平成27年5月より半日から全日で実施し、リハビリテーションの提供体制の強化を図りました。

### (4) 臨床研究及び治験の推進

①新規職員を対象に臨床研究等に伴う倫理や病院の取り組みについて説明を行うとともに、引き続き院内イントラネットに臨床研究に関する倫理指針を掲載し、随時閲覧できるようにしました。

写真1 手術支援ロボット「ダヴィンチ」



◆ダヴィンチの特徴◆

- ①内視鏡下の画像の3次元化及びズーム機能により、視野が拡大される。
- ②コンピュータによる手振れの補正により従来の開腹手術に比べ、手術に伴う切開や出血の抑制が期待できる。

表1 内視鏡による手術件数(件)

H25	H26	H27
1,041	1,119	1,233

写真2 糖尿病教室



院内だけでなく、長田公民館のリフレッシュセミナーにも参加し、糖尿病について劇を交えて分かりやすく説明しました。



表2 CT検査件数(件)

H25	H26	H27
13,322	13,791	14,557

表4 院内の主なチーム

- NST (栄養サポートチーム)
- 禁煙チーム
- 褥瘡対策チーム
- 改善活動推進チーム
- 緩和ケアチーム
- 糖尿病チーム
- CPR (心肺蘇生法) チーム
- 呼吸ケアチーム
- ICT (感染管理チーム)
- リエゾンチーム
- 災害対策チーム

表3 薬剤管理指導件数(服薬指導)の推移(件)

H25	H26	H27
9,488	10,311	11,882

◆用語解説◆ (臨床研究、治験はP9参照)

※1 一包化

服用するタイミングが同じ薬や、1回に複数個服用する薬を、1袋ずつパックにすること。

※2 チーム医療

医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を活かし、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること。

※3 入院前オリエンテーション

患者が安心して治療が円滑に受けられるように、入院前に看護師が入院中に行う治療・検査や入院中の注意事項等について説明すること。

# 神戸市立医療センター西市民病院

### 3. 安全で質の高い医療を提供する体制の維持

#### (1) 医療の質を管理することの徹底

- ①クリニカルパス(※1)委員会を継続開催し、使用されていないパスの利用促進やパスの適用が可能な症例について提案を行う等、適用率向上に向けた取り組みを行いました。また、さらなる円滑なパスの利用に向けて、クリニカルパス**マニュアルの見直し**を行いました。(グラフ1)
- ②平成26年度末に導入した電子カルテに続き、平成27年6月に、歯科部門支援システムを導入し、電子カルテと部門システムとの連携をより強化しました。また、電子カルテ等における課題を審議するための場として、電子カルテ部会を新たに設置し、業務の効率化に向けた検討を行いました。

#### (2) 医療安全対策及び医療関連感染対策の強化

- ①院内で発生したインシデントやアクシデント(※2)について話し合う事例検討会を週1回開催し、原因の調査や再発防止に向けた取り組みについて検討を行いました。また、平成27年10月より開始された**医療事故調査制度(※3)**について、院内の医療安全管理マニュアルの改訂や研修会を開催し、職員への情報提供を行い、**報告システムを整備**しました。
- ②患者が常用している薬について、手術前に中止するべき薬がないか薬剤師が確認を行う「**入院前おくすり確認外来**」を平成28年3月より**開始**し、**患者が安心して手術を受けられるよう体制を整備**しました。(写真1)
- ③感染管理チームによる院内の巡回を実施し、院内の感染状況の把握を行いました。また、必要に応じ、環境整備を強化する等の対策を講じ、院内での伝播防止に取り組みました。(写真2)
- ④院内での必要な情報や最新情報等を記載した「ニュースレター」を定期的に発行し、職員への情報提供を行うとともに、院内研修会を積極的に開催し、**職員の知識向上**に努めました。

(表1、図1)

#### (3) 法令及び行動規範の遵守(コンプライアンス)の徹底(P10の内容を再掲)

- ①コンプライアンス推進本部会議を開催するとともに、各所属においてコンプライアンス研修を実施し、**全職員がコンプライアンスの重要性について認識・実践するための対応を継続**しました。また、不祥事件の再発防止と服務規律の徹底を図るため、機構として、懲戒処分の指針を改定しました。
- ②情報セキュリティ監査や研修を引き続き開催し、情報セキュリティの強化を図りました。また、平成27年度は、新たに職員を対象に標的型攻撃メールについての訓練メールの送付やワークショップを開催し、**情報セキュリティの意識向上のための取り組みを強化**しました。
- ③監事監査及び会計監査人監査を引き続き実施したほか、平成27年度は、会計検査や財政援助団体監査が実施され、一部指摘を受け、改善を行いましたがおおむね良好との結果でした。



グラフ1 クリニカルパス件数(件)及び適用率(%)

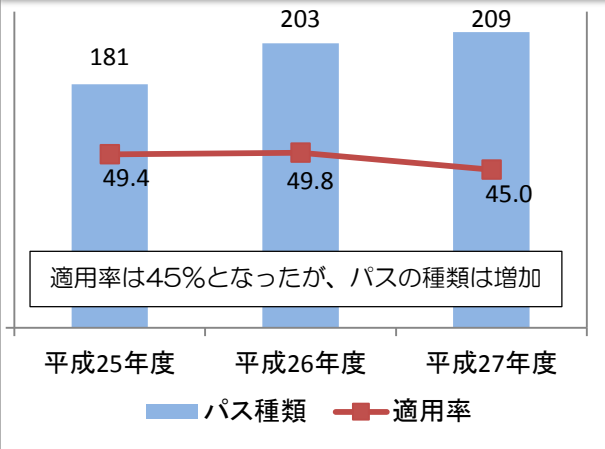


写真1 入院前おくり確認外来(イメージ)

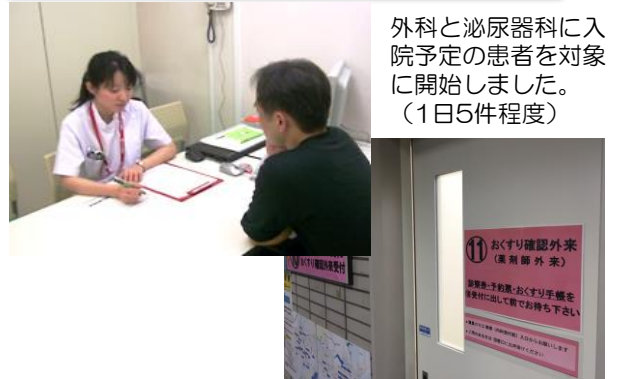


図1 ニュースレター



写真2 感染管理チームによる院内巡回の様子



医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されたチームで週1回巡回を実施しました。

表1 職員研修会の実施状況

**【医療安全】**

- ・アナフィラキシーショック
- ・みんなで取り組む感染対策と医療安全
- ・MR講習会 等

合計16回、延787名が参加しました。

**【感染対策】**

- ・手指衛生のタイミングについて
- ・感染性胃腸炎について
- ・結核について 等

合計34回 延1,547名が参加しました。

◆用語解説◆

※1 クリニカルパス

病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療法ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画書のこと。

※2 インシデント、アクシデント

インシデントとは、医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に被害を及ぼすことはなかったが、注意を喚起すべき事例。アクシデントとは、医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した、患者に被害を及ぼした事例。

※3 医療事故調査制度

医療行為に起因して予期しない死亡又は死産が発生した場合に、その医療機関において院内調査を行い、その調査報告を民間の第三者機関（医療事故調査・支援センター）が収集・分析することで再発防止につなげるための医療事故に係る調査の仕組みを、医療法に位置づけ、医療の安全を確保するもの。

# 神戸市立医療センター西市民病院

## 4. 市民及び患者とともに築くやさしい病院

### (1) 患者のニーズに応じたサービスの提供

- ①患者満足度調査の実施や意見箱の設置により、**来院者からの要望や意見等の把握に取り組み**、適宜改善を行うとともに、院内の会議でも報告を行い、院内全体で情報共有を図りました。また、診療時間枠の柔軟な設定や検査開始時間の繰上げ等の取り組みを継続し、診察や検査における待ち時間の軽減を図りました。（グラフ1）
- ②病院周辺の美化清掃を継続するとともに、平成26年度に緑化リニューアルを行った6階庭園や正面玄関周辺の植栽の管理を行い、来院者へのやすらぎの提供に取り組みました。また、5S（※1）ラウンドを実施し、壁紙や掲示物の整理等を行い、院内の環境についても改善を行いました。
- ③入院患者やその家族等を対象に、合唱や演奏会等を行う院内コンサートを引き続き実施するとともに、毎年恒例の夏祭りを開催し、多くの方に参加していただきました。（写真1）
- ④一部の案内表示の多言語化表記に加え、通訳者が診察や検査に同行する医療通訳制度の利用を継続し、**外国人患者が安心して受診できる体制を継続**しました。（表1）
- ⑤病院食について、味やサービスの向上に取り組むとともに、朝食の副食の充実等を図りました。また、嚥下食（※2）から普通食への移行食としても利用できるソフト食（※3）について、病院管理栄養士、言語聴覚士、給食業者と検討を行い、平成27年11月より**ソフト食の導入を開始**しました。（写真2）
- ⑥外来看護担当マネジャー（外来患者の診察に関するアドバイス等）やフロアマネジャー（案内）等を配置し、来院者からの問い合わせや相談にきめ細かく対応し、外来案内機能の充実を継続しました。また、案内業務をはじめとするボランティアとも定期的に意見交換会を行い、患者ニーズの把握に取り組みました。

### (2) 市民及び患者へ開かれた病院

- ①患者及び一般市民を対象とした広報誌「虹のはし」を発行し、西市民病院の診療情報や医療スタッフの役割、新しい取り組みについて情報提供を行いました。また、平成27年度より、発行回数を例年の2回から3回に増やしました。
- ②**病院のホームページについて**、随時新しい情報の追加・更新を行い、市民等に分かりやすい情報の提供に努め、**アクセス回数が増加**しました。
- ③医師・看護師・コメディカルが中心となり、患者家族や市民も対象とする**患者向け教室を引き続き開催**しました。（表2）

グラフ1 患者満足度調査結果(%)

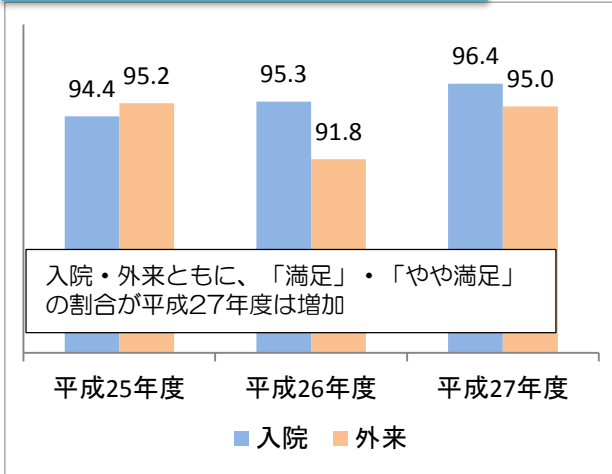


写真1 院内コンサート・夏祭りの様子



長田高校合唱部のみなさんに素敵な歌声を披露していただきました。



子どもから高齢者まで多くの方に参加いただき、盛況に終わりました。

写真2 嚥下食・ソフト食



表1 医療通訳派遣実績(件)

H25	H26	H27
26	113	79

※主な言語  
ベトナム語

### 患者相談受付

Reception for Patient Consultations 환자 상담 접수  
Nơi tiếp tân bệnh nhân đến khám 患者咨询接待处

一部の案内表示に、英語、ベトナム語、韓国語、中国語を表記

表2 患者向け教室の開催状況

- ・禁煙教室 8回
- ・糖尿病教室 10回
- ・市民公開講座 6回

合計24回開催し、595名の参加がありました。

### ◆用語解説◆

#### ※1 5S

整理・整頓・清掃・清潔・躰の頭の文字をとったもの。

#### ※2 嚥下食

嚥下とは、食物を口腔から胃まで運ぶ運動（飲み込み運動）のこと。嚥下食とは、高齢や疾患などのため嚥下障がいを持つ人が、飲み下しやすいように工夫した食事で、適度な粘度があり、変形しながら滑らかに喉を通過しやすくしたもの。

#### ※3 ソフト食

ミキサーにかけて柔らかくした食品を再形成して作られた食事。噛む必要もなく、食品の原型をとどめ、なおかつ飲み込みやすい介護食のこと。



# 神戸市立医療センター西市民病院

## 5. 地域医療連携の推進

### (1) 地域医療機関との更なる連携

- ①「かかりつけ医相談窓口」を設置し、かかりつけ医を持ってもらうための相談体制を継続しました。また、紹介患者の増加に向け、院内でのポスター掲示等で来院者に周知するとともに、区役所で開催される地域の会議にも参加し、市民への啓発を行う等、医療機関の役割に応じた**患者の紹介・逆紹介(※1)の推進**に引き続き取り組みました。(グラフ1、写真1)
- ②他の医療機関から紹介のあった患者については、西市民病院での診療状況について紹介元の医療機関に報告を行う診療情報提供書の作成をより徹底するための運用を開始しました。
- ③地域の医療機関からのFAX予約の返信にかかる時間を短縮するため、院内での運用を見直すとともに、平成27年8月より、土曜日のFAX予約受付を開始し、**FAX予約をより円滑に推進するための体制を整備**しました。(表1)
- ④各診療科、チームにおいて、積極的にオープンカンファレンスを開催し、地域の医療従事者に情報提供を行いました。また、「地域連携のつどい」を開催し、診療科の取り組みについて紹介し、地域医療機関との交流を図りました(写真2、表2)。さらに、**地域医療機関の医師と信頼関係を構築**するため、地域医療部長や各診療科部長による地域医療機関訪問を強化しました。
- ⑤兵庫・長田二次救急病院連携の会に参加し、近隣の医療機関と急性期・亜急性期における患者転院紹介や受入事情についての意見交換を行いました。
- ⑥長田区認知症連携パス協議会や長田区ネットワーク連絡会、兵庫区地域ケアネットワーク定例会等に参加し、地域との顔の見える連携の強化を図りました。

### (2) 在宅医療への支援及び在宅医療との連携の強化

- ①周辺地域での高齢化率の上昇や、「地域包括ケアシステム(※2)」構築への寄与も見据え、医療と介護の架け橋として在宅医療支援を展開していくため、平成27年度より、「地域医療推進課」と「在宅支援室」を統合・再編した**「地域医療在宅支援室」を設置**しました。
- ②患者の円滑な退院のため、かかりつけ医、訪問看護師、ケアマネジャー、介護士等との退院前カンファレンスを積極的に行いました。また、入院中又は退院日に患者の自宅を訪問し、退院後の在宅での療養上必要なケア等の調整を行う退院前訪問指導に継続して取り組みました。
- ③市内訪問看護師との交流会の実施や兵庫・長田・須磨区の3区ケアマネジャーとの交流会を初めて開催し、**顔の見える連携の強化**に取り組みました(写真3)。また、市内の訪問看護ステーションに対して要望等に関するアンケートを実施し、要望事項を取り入れる等の対応を行いました。
- ④専門性を活かしながら連携をさらに進めていくため、院内多職種交流会を初めて開催し、退院支援や在宅療養支援を行う上での課題を検討する意見交換会を行いました。(写真4)

グラフ1 紹介率・逆紹介率(%)

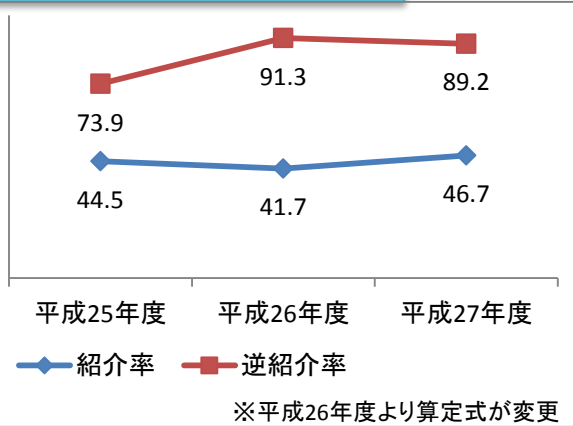


写真1 院内掲示ポスター等



院内掲示や正面玄関入口に立て看板を設置し、紹介患者の増加に取り組みました。

写真2 「地域連携のつどい」の様子



平成28年2月25日に開催し、院外参加者68名を含め、131名が集まりました。

写真3 3区ケアマネジャー交流会



院外参加者41名を含む60名が参加し、活発なグループ討議を行い、お互いの理解を深めました。

表1 FAX予約件数(人)

H25	H26	H27
4,148	4,494	4,864

表2 連携医の推移(人)

H25	H26	H27
488	488	523

写真4 院内多職種交流会



医師、看護師、MSW等、合計47名が参加し、意見交換を行いました。

### ◆用語解説◆ (MSWはP27参照)

#### ※1 逆紹介

地域の開業医等から紹介を受けた患者の治療が終了して、紹介元の開業医等へ再度患者を紹介すること。また、逆紹介率とは、初診患者に対する逆紹介患者の割合を示す指標。

#### ※2 地域包括ケアシステム

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される支援体制のこと。

## 優秀な職員の確保と人材育成

### 1. 優れた専門職の確保と人材育成

#### (1) 優れた専門職の確保

- ①全ての職種において、病院運営に必要な優れた人材の確保に取り組むとともに、豊富な知識や経験を持つ**病院勤務経験者採用を継続**して実施しました。(グラフ1)
- ②看護職員の確保のため、県内だけでなく県外においても、**合同就職説明会の参加や学校訪問等を積極的に実施**しました。また、内定者の入職前の不安を軽減するため、内定者懇談会を開催しました。(写真1)
- ③神戸市看護大学との連携については、中央市民病院の医師が教授に就任するとともに、学生の就職支援のために新設されたキャリア支援室の初代室長に元西市民病院看護部長が就任し、さらなる連携強化を図りました。また、神戸市看護大学生向けの修学資金貸与制度をより充実した内容に改正したほか、キャリア支援室との共催による就職セミナーを開催し、看護職員の確保を図りました。
- ④薬剤師レジデント制度(※1)を引き続き活用し、**高度医療に対応した薬剤業務やチーム医療を実践できる薬剤師の養成と人材確保**に取り組みました。また、中央市民病院においては、リハビリのレジデント制度についても活用を行いました。

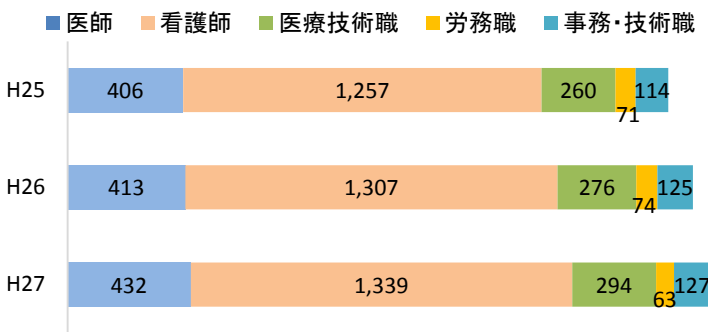
#### (2) 職員の能力向上等への取り組み

- ①職員の専門性の充実を図るために、**資格取得支援制度**、医師の研究休職制度、短期国内外派遣制度等を**継続して実施**しました。(表1)
- ②医療技術職員の中堅職員に対し、職場における立場・役割を再認識するための研修を実施したほか、係長級に昇格した職員に対し、マネジメント能力の向上を図るための研修を実施しました。
- ③医事課及びMSW(※2)のスキルアップを目的とした研修会を引き続き実施し、年度末に各メンバーが取り組んだ業務等について発表会を開催しました。(表2)

#### (3) 人材育成等における地域貢献

- ①積極的に学生等の受入れを行い、人材の育成に貢献するとともに、看護師の復職支援のための研修会の開催や復職支援セミナーに参加し、**潜在看護師(※3)の復職支援対策**に取り組みました。
- ②中央市民病院においては、引き続き、**がん薬物療法専門薬剤師の研修施設**として、他病院からの薬剤師の受入れを行いました。
- ③西市民病院においては、より効率的な実習に繋げるため、神戸市看護大学の教員等と実習の受入れ体制や実習の様子等について情報交換を行いました。

グラフ1 職員数の推移(人)



地方独立行政法人の柔軟性・機動性を生かし、医療需要等に応じて年度途中採用も行うことにより、柔軟な職員配置を行うことができました。

その結果、医師・看護師等について適正な職員数を確保し、より良い医療を提供できる体制を整えることができました。

※各年度3月末時点での職員数  
 ※正規職員のほか、任期付医師、専攻医、研修医を含む

表1 主な制度の平成27年度利用者数

制度	利用者数
資格取得支援制度	11名
医師研究休職制度	2名
短期国内外派遣制度	1名
看護職員長期留学制度	3名
看護職員大学院留学制度	3名
看護職員海外派遣制度	1名

写真1 看護職員確保の取り組み



若手の先輩看護師も参加し、学生と直接話をする機会を設けました。



表2 医事課職員研修会・MSW研修会の内容

【医事課職員研修会】

- ・医事課職員全員のスキルアップを目標に、診療報酬に関するマニュアルを作成し、両病院の医事課において勉強会を開催し、年度末に発表会を実施しました。

【MSW研修会】

- ・各病院の取り組みの違い等について、グループワークを行ったほか、ソーシャルワーカーの専門性についてをテーマに発表会を実施しました。

◆用語解説◆

※1 レジデント制度

実務経験に根ざした講義と臨床実務実習を通して、高度急性期医療・地域連携に対応した臨床能力を身に付け、チーム医療を実践できる医療技術職員を育成するため作られた制度。2年間の研修期間を設けている。

※2 MSW(Medical Social Worker・医療ソーシャルワーカー)

保健医療分野におけるソーシャルワーカーであり、主に病院において疾病を有する患者等が地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう、社会福祉の立場から、患者や家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図る専門職のこと。

※3 潜在看護師

看護師の資格を持ちながら、家庭の事情等で看護の現場を離れ、ブランクはあるが再就職を希望している人。



## 優秀な職員の確保と人材育成

### 2. 働きやすくやりがいの持てる環境づくり

#### (1) 努力が評価され報われる人事給与制度等の導入

- ①医師の人事給与制度の再構築に向けた検討を引き続き実施し、平成28年度より医師の人事評価制度を試行的に実施することを決定しました。
- ②法人職員の係長昇任選考を継続し、優秀な職員を積極的に登用しました。

#### (2) 働きやすい環境の整備

- ①平成26年度末に全職員を対象に実施した**職員満足度調査の結果を踏まえ、改善すべき項目について検討**を行いました。中央市民病院においては、増築に伴い、病児保育の検討を行う等、職場環境の改善に向けて検討を行いました。西市民病院においては、売店の営業時間の試行延長及び品揃えの充実を図ったほか、看護部のワークライフバランス(※1)推進プロジェクトチームにおいて、働きやすい職場環境づくりについて分析を行いました。
- ②**優秀職員表彰を引き続き実施**し、職場の活性化・勤労意欲の向上を図りました。また、各部門や各部署における業務発表会について引き続き実施し、さらに西市民病院においては、病院機能の向上・業務の効率化を達成させるための発表会「改善活動発表会」を開催しました。  
(写真1、表1)
- ③両病院において、医療クラーク(※2)を外来や病棟等に引き続き配置し、**医療職の事務負担の軽減**を図りました。
- ④中央市民病院においては、院内保育所の設置やお泊り保育を継続しました。また、西市民病院においては、警察OBや警備員の24時間365日配置を継続し、**安全で安心な診療体制の確保**を図りました。
- ⑤職員の様々な相談を受ける窓口（メンタルヘルス、ハラスメント、内部通報等）を設置し、職場におけるストレスの軽減やメンタルヘルスに関する支援を行う体制を継続しました。

#### ◆用語解説◆

##### ※1 ワークライフバランス

私生活の充実により、仕事があまく進み、仕事があまくいくことによって、私生活も潤うという「仕事と生活の相乗効果を高める考え方と取り組み」全般のこと。

##### ※2 医療クラーク

医師事務作業補助者のこと。カルテへの記載、診断書の作成などの補助等、医師が行う業務のうち、事務的な業務をサポートする職種。両病院においては以上の業務のほか、診察が円滑に進むよう看護師、受付、その他スタッフと連携を図り、診察案内等も行っている。



#### 写真1、表1 業務発表会について

—中央市民病院—

【これは任せて】

金賞：鼻血を止める大作戦！！

-8階西病棟-

銀賞：NICUってどんなところ？  
～赤ちゃんの1日～

-3階中病棟-

銅賞：手術室看護

～安心してください。安全ですよ～

-手術部-



—西市民病院—

【この〇〇はまかせて】

1位：ソフト食はじめました！

-栄養管理室（ニチダン株）-

2位：任せて！類天ケア

-6階病棟-

3位：その人らしいお産を支えるケア

-5階病棟-



【改善活動発表会】

金賞：緊急検査Q&Aの作成

-臨床検査技術部-

銀賞：ホルモン療法 皮下注射の導入

-外来（泌尿器科）-

銅賞：待ち時間対策

-外来（耳鼻科）-

#### トピックス ◆増築による医療機能の充実を図ります◆

中央市民病院・西市民病院の両病院では、外来診療部門の混雑緩和による患者サービスの向上や、医療機能の強化を目的として増築・改修工事を行っています。

〈中央市民病院 北館〉

混雑緩和等のための外来診察室の拡充、救命救急センターの拡充他

地階 倉庫

1階 精神科身体合併症病棟 (MPU)他

2階 外来診察室他

3階 医局他

4階 手術室他

鉄骨造 一部RC造

地上4階 地下1階

延べ面積 4,045.25㎡



〈中央市民病院 南館〉

会議室、人材育成センターなどの研修施設の拡充他

1階 玄関ホール・

ピロティ 駐車場他

2階 人材育成センター

(トレーニングラボ・

研修ホール)他

3階 病児保育室他

鉄骨造 地上3階建て

延べ面積 3,079.45㎡



〈西市民病院 東館〉

混雑緩和等のための外来診察室の拡充他

1階 更衣室・事務室他

2階 外来診察室他

3階 更衣室他

4階 医局事務室他

5階 更衣室・事務室他

6階 倉庫他

鉄骨造 地上6階建て

延べ面積981.47㎡



# 経営状況について

## 1. 安定的な経営基盤の維持

### (1) 安定的な経営収支及び資金収支の維持

- ①両病院において、各診療科の傾向の把握や分析等をテーマに院長ヒアリングを年2回実施し、各診療科や各部門に対して、**経営改善の意識の向上**を図りました。また、業務経営改善会議を毎月開催し、決算状況や各部門の取り組みについて報告や検討を行い、安定的な経営を維持するための対策を図りました。
- ②経営改善の取り組みの強化について職員全員に周知を行うとともに、時間外勤務の削減に取り組む等、**職員の経営改善意識の徹底**を図りました。さらに、中央市民病院においては、平成27年3月に開催した経営改善ワークショップにおいて提案された内容についての協議を行いました。

### (2) 収入の確保

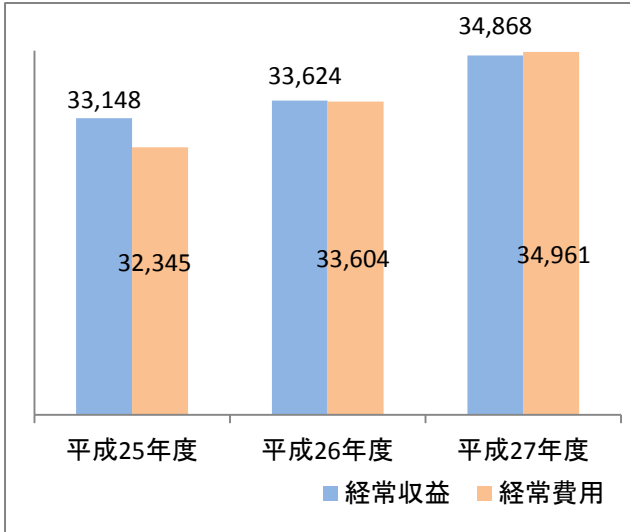
- ①両病院において、保険請求に関する委員会を毎月開催し、査定(※1)状況の報告や査定対策に向けた取り組みについて検討を行うとともに、診療報酬について理解を深めるための勉強会を実施し、適正な診療報酬請求に取り組みました。また、**新たな加算の取得を行い収入の確保**を行ったほか、平成28年度の診療報酬改定に向け、情報収集や新規項目の取得について検討を行いました。

### (3) 費用の合理化及び業務の効率化

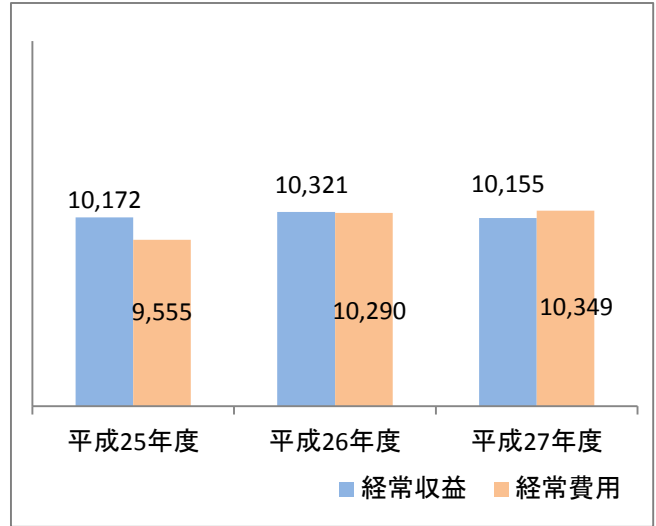
- ①中央市民病院においては、循環器領域で使用しているペースメーカーのさらなる価格交渉による経費削減を行い、西市民病院においては、診療材料の切替時の院内ルールを徹底するための事後検証を開始する等、両病院において、診療材料の適切な在庫管理や在庫削減に取り組みました。法人本部では、ベンチマークシステム(※2)を活用し、両病院の同一材料で価格差のあるものや、購入数量に比べて値引率の低い材料について、交渉を行いました。また、**共通の消耗品や一部診療材料については、一括契約及び交渉を行い、費用の削減**に取り組みました。
- ②**後発医薬品(※3)**については、医薬品の安全性を十分に評価したうえで**導入を促進**し、両病院において、後発医薬品の数量割合が上昇しました。
- ③**医薬品の薬価交渉**を行うにあたり、薬剤部長会において目標の設定や、理事長や病院幹部出席の3病院（中央市民病院、西市民病院、西神戸医療センター）合同説明会を医薬品業者に対して実施する等、**さらなる効果額を確保できるよう取り組み**ました。（写真1）
- ④入札や契約について、透明性・公平性を高め、競争性がより働くようにするため、入札手続期間や納入期限等の遵守を確認する研修会を実施し、制度についての理解を深めました。（写真2）

## グラフ 経常収益・経常費用

## ◆中央市民病院



## ◆西市民病院



## 写真1 3病院医薬品交渉合同説明会



新たな試みとして理事長・病院幹部等による合同説明会を開催し、合計20業者が参加しました。

## 写真2 入札・契約研修会

中央市民病院・法人本部



合計47名の事務職員が参加しました。



西市民病院

## ◆用語解説◆

## ※1 査定

医療機関が作成した診療報酬明細書（患者が受けた医療について、国民健康保険や健康保険組合等に請求するために医療機関が診療報酬点数表に基づいて作成する請求書のこと。レセプトと呼ばれる。）を、審査機関が規則などの定めによって審査し、請求内容が適切でないと判断したものを減点することを「レセプト査定」という。

## ※2 ベンチマークシステム

他の医療機関の購入価格をインターネット上で比較・検討することができ、自施設の購入価格の位置が明確となり、購入価格の引き下げ交渉に有力な情報として活用できるシステムのこと。

## ※3 後発医薬品

成分そのものや、その製造方法を対象とする特許権が消滅した先発医薬品について、特許権者ではなかった医薬品製造メーカーがその特許の内容を利用して製造した、同じ主成分を含んだ医薬品のこと。ジェネリックともいう。

# 経営状況について

## 2. 質の高い経営ができる病院づくり

### (1) 質の高い経営体制の維持

- ①常任理事会及び理事会を定期的を開催し、経営状況や経営改善策の報告を行い、活発な議論を行うとともに、迅速な意思決定を図り、**円滑な病院運営に取り組みました。**（写真1）
- ②**年度計画の達成状況の確認及び課題の把握**のために、四半期ごとにマネジメントシート（進捗管理表）を作成し、進捗確認を行いました。また、上半期については、市関連予算要求と併せて理事長ヒアリングを実施しました。さらに、四半期ごとの進捗状況の確認後に、マネジメントシートを職員専用サイトに掲載し、情報共有を図りました。
- ③両病院において、幹部会を週1回開催し、重要事項についての確認や意思決定を行うとともに、各診療科部長、各部門長が出席する会議を月1回開催し、経営状況や各委員会の概要報告を行い、**病院全体での情報共有や意見交換**を行いました。

### (2) 計画的な投資の実施

- ①**適切な予算執行ができていかどうか確認**を行うとともに、増築や電子カルテの整備における時期や投資額について十分な協議を行いました。
- ②中央市民病院においては、高額医療機器の更新については、**投資額の平準化**を図った計画に基づき導入を進めるとともに、更新対象の基準を取得後8年とする運用を継続しました。（写真2）
- ③西市民病院においては、高額医療機器の更新や購入については、各部門の経営状況等を踏まえ、購入機器の優先順位を決定しました（写真2）。また、平成28年3月に、内科診察室を1診増診し、**外来機能の充実や患者サービスの向上**を図りました。

### (3) 環境にやさしい病院づくり

- ①両病院において、引き続きエネルギー使用量の削減に取り組み、省エネ法において目標とされている**年平均1%以上のエネルギー使用量の削減を達成**しました。（グラフ1）
- ②中央市民病院においては、BEMS（ビルエネルギー管理システム）を活用した空調及び照明設備等の効率的運用や太陽光発電の活用を行うとともに、これまでの廊下等の間引き点灯・空調温度設定の適正化に加え、人感センサーによるエレベータホールの間引き点灯やエレベータ・エスカレータの間引き運転に取り組みました。
- ③西市民病院においては、民間事業者ノウハウを活用しながら、省エネルギー化の推進や光熱水費の削減を図るE S C O事業（※1）の導入に向けて、検討を進めました。



写真1 常任理事会・理事会

【主な議題】

- ・月次決算、決算見込報告について
- ・諸規定の改正について
- ・年度計画の進捗状況について
- ・看護師確保の状況について
- ・外郭団体に関する特別委員会について
- ・西神戸医療センターの移管について  
(定款変更、第2期中期計画・中期目標の変更)



常任理事会



理事会

写真2 高額医療機器

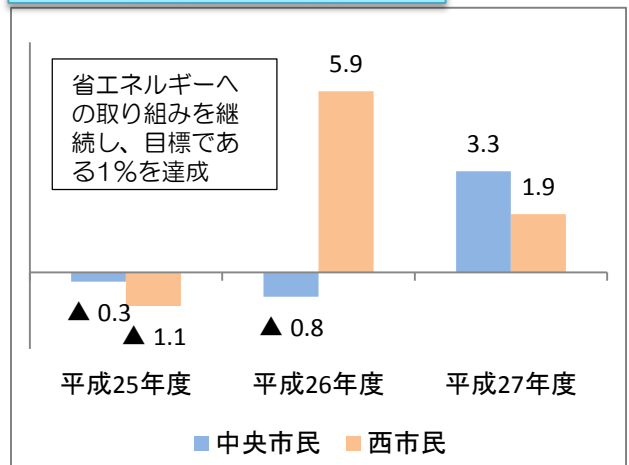


320列CT(H27年度購入)  
(中央市民病院)



手術支援ロボット「ダヴィンチ」  
(H27年度購入)  
(西市民病院)

グラフ1 エネルギー使用削減率  
(前年度比削減率)(%)



◆用語解説◆

※1 ESCO事業

省エネルギーに関する包括的なサービス(省エネ診断、設計、改修工事、維持管理等)を提供して省エネルギー効果を保証し、それにより得られる省エネルギー削減額の一部を事業者が報酬として受取る事業のこと。

# 経営状況について

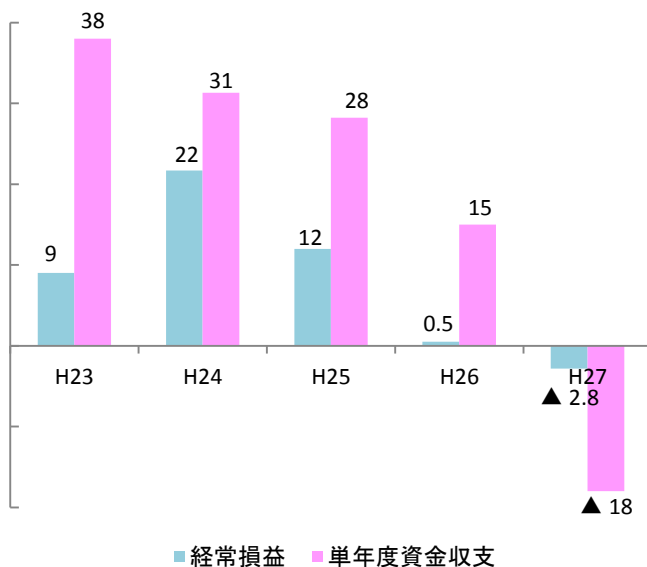
## ◆◆平成27年度決算概要◆◆

### ◆法人全体

①両病院において、政策的医療にかかる市からの運営費負担金等の交付の下、市民病院としての役割を果たすとともに、安定した経営基盤を維持し、より自立した経営を行うことを目標に取り組みました。

②平成27年度は消費税負担の増等、医療を取り巻く環境が厳しさを増す中、職員一丸となって経営改善策を実施することにより、**収益の改善や経費の縮減等**に努めたものの、**高度医療の提供等による費用の増加**に伴い、**経常損益及び当期純損益**については、**約3億円の赤字**となりました。

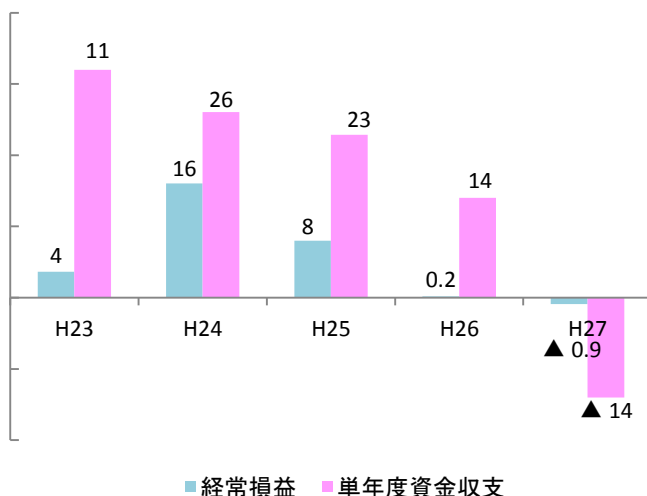
③単年度資金収支については、現中央市民病院整備にかかる**借入金返済額がピーク**の年であったため、**18億円の赤字**となっています。



### ◆中央市民病院

①地域医療連携のさらなる推進に努めたこと等によって、平均在院日数が短縮されるとともに、高度医療を行うことによる診療単価の上昇等により収益を確保しました。

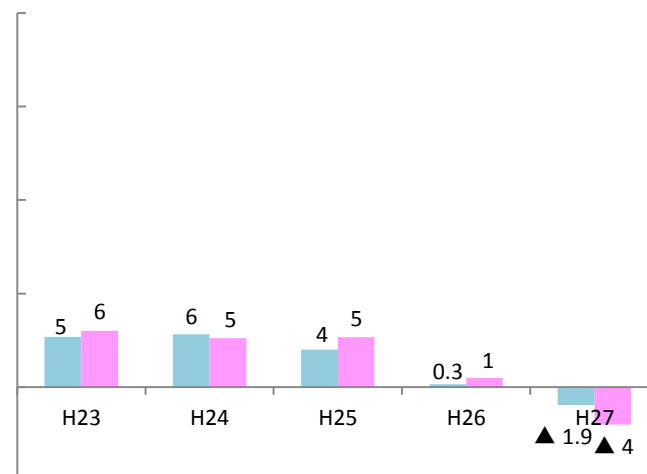
②医療の質向上や医療安全の確保等に十分配慮した上で、引き続き効率的かつ効果的な体制構築に取り組むとともに、経営改善策の実施により経費の縮減等に努めたものの、高度医療の提供等による費用の増加に伴い、**経常損益**としては0.9億円、**当期純損益**としては1.2億円の赤字となりました。



### ◆西市民病院

①在宅医療への支援を含め、地域医療機関との連携強化を図るとともに、新たな診療報酬加算の取得等により収益を確保しました。

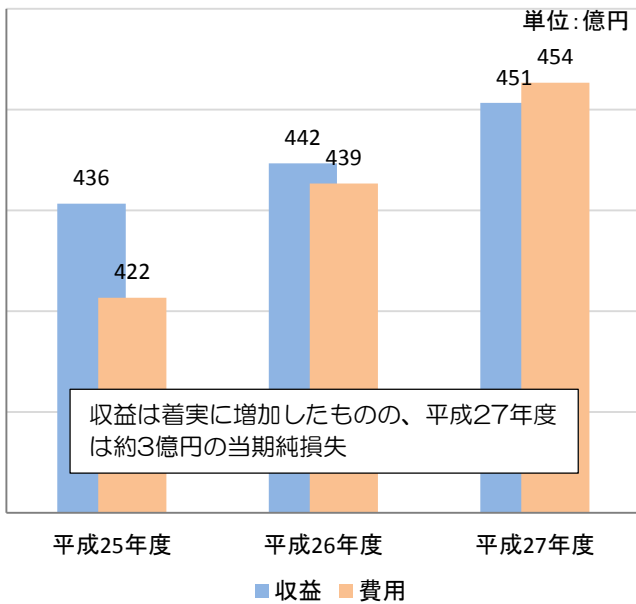
②医療サービスの質の維持・向上を図りながら、診療材料費や医薬品等について費用の節減に取り組んだものの、医師の異動等に伴い患者数が目標値を下回ったことから、**経常損益**としては1.9億円、**当期純損益**としては1.4億円の赤字となりました。



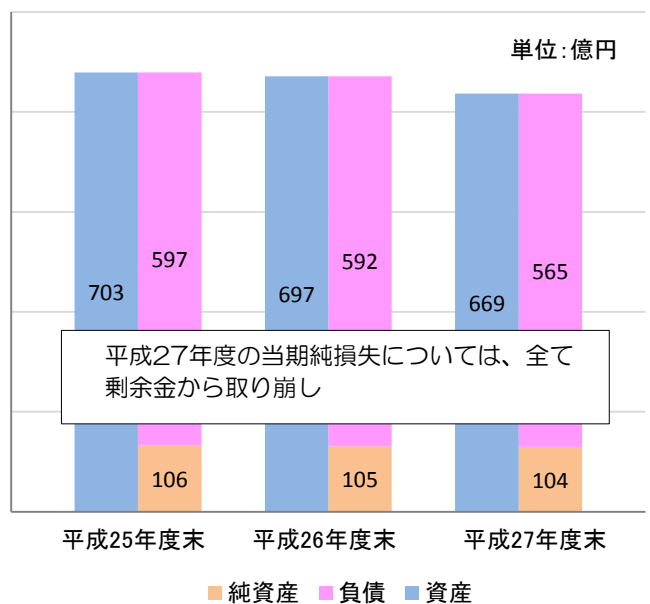
◆◆財務諸表の概要◆◆

【損益計算書】・・・各事業年度における法人の経営成績を表示  
 【貸借対照表】・・・事業年度末（3月31日）現在における法人の財政状態を表示  
 【キャッシュフロー計算書】・・・各事業年度の現金及び預金の増減を活動区分別に表示  
 【行政サービス実施コスト計算書】・・・納税者が実質的に負担しているコストを表示

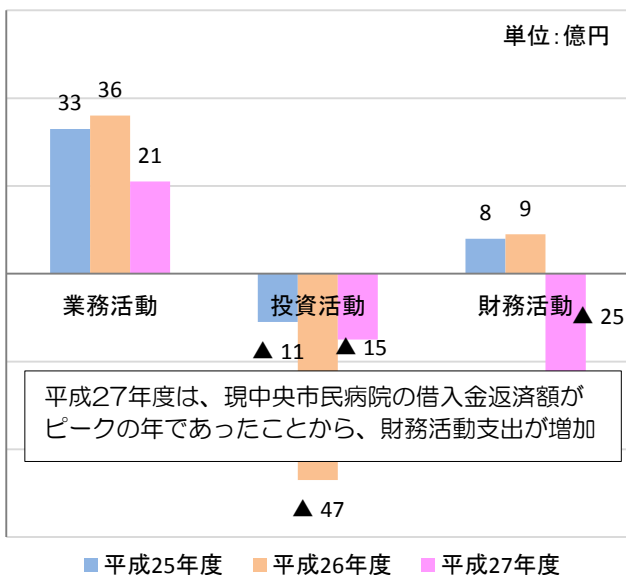
損益計算書



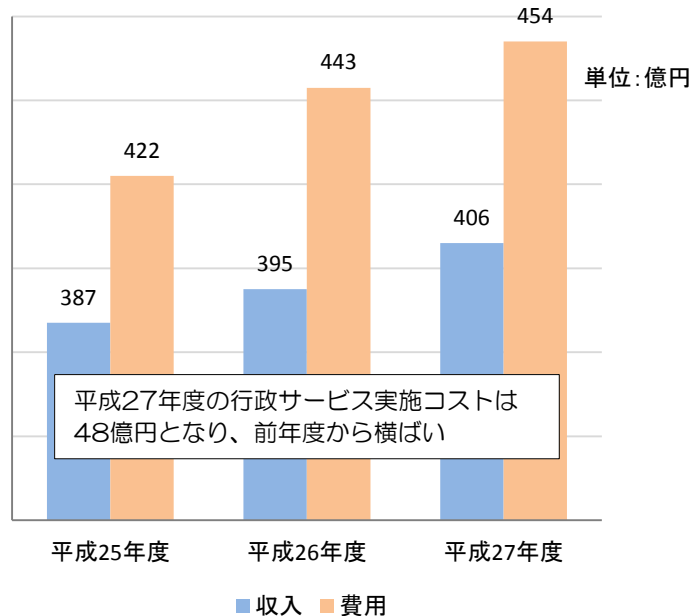
貸借対照表



キャッシュフロー計算書



行政サービス実施コスト計算書



・平成27年度末の現金及び預金残高（定期預金含む）106億円。

# 中央市民病院の運営・市関連病院連携・神戸医療産業都市

## 1. 中央市民病院におけるPFI事業の円滑な推進

- ①中央市民病院において、PFI事業(※1)に関し定期的に連絡会や会議を開催し、業務実施状況の把握や経営改善を図りました。また、平成27年度は、PFI導入5年目を迎え、**5年間の検証が行えるよう**、外部コンサルタントとの**協議及び先行事例調査**を行いました。
- ②院内で実施する合同防災訓練等にPFI事業者や協力法人も参加するとともに、災害時の体制やマニュアルについても整備する等、PFI事業者と病院が一丸となって災害時の対応に取り組みました。

## 2. 市関連病院との連携

- ①市関連病院間において、**医療機能に応じた患者の紹介・逆紹介**を行うとともに、**各部門での連携会議や人事交流**を行い、連携の促進を図りました。(表1、図1)
- ②中央市民病院においては、神戸リハビリテーション病院が、「回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰ加算」を算定することに伴い、これまで受入れが困難であった重症度の高い患者の受入れ等について連携会議を開催し、より密接な連携強化に努めました。
- ③西市民病院においては、放射線治療等の患者について市関連病院と積極的に連携を図りました。また、平成27年度は新たに、先端医療センター病院との専攻医の合同コースを開始し、連携を強化しました。

## 3. 神戸医療産業都市における役割

- ①メディカルクラスター連携推進委員会(※2)に参加し、BCP(事業継続計画)対策や市関連病院及びメディカルクラスター内での病病連携や他用途にも応用可能であるシステムについて検討しました。
- ②**中央市民病院において**、先端医療センターをはじめとして、**近隣の医療機関との連携**を進めるため、定期的に連携会議を開催しました。また、平成28年5月にポートアイランドに移転する県立こども病院とは、双方の医療機能を補完しあえるよう、連携や役割分担について、検討を行いました。(図2)

### ◆用語解説◆ (逆紹介はP25参照)

#### ※1 PFI事業

平成11年に施行された「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(PFI法)に基づいてなされるもので、民間の資金やノウハウを活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法のこと。

#### ※2 メディカルクラスター連携推進委員会

産官学の連携による神戸医療産業都市の推進主体として設置された「神戸医療産業都市推進協議」の専門委員会の一つ。神戸医療産業都市の推進にかかる戦略等の検討や広報活動等を行う。



表1 主な部門会議

・市関連病院連絡調整会議	1回
・市関連病院等連絡会	6回
・両病院院長会議	10回
・両病院連携会議	3回
・3病院看護部長会	4回
・3病院薬剤部長会	2回
・4病院医事課長会	6回
・3病院地域連携担当課長会議	4回

※3病院

中央市民、西市民、西神戸医療センター

※4病院

中央市民、西市民、西神戸医療センター、  
先端医療センター

図1 市関連病院



図2 神戸医療産業都市



**トピックス ◆西神戸医療センターの市民病院機構への移管について◆**

西神戸医療センターが平成29年4月1日に市民病院機構へ移管することが決定しました。移管に向け、手続きを進め、定款及び中期目標の変更に対して市議会の議決をいただきました。今後、評価委員会の意見を聴取した上で、中期計画変更に伴う手続きを進めるとともに、課題の整理等、円滑に移管が行えるよう準備を進めていきます。

〈病院概要〉

所在地： 神戸市西区糶台5丁目7番地1

病床数： 475床 [一般病床425床(うちICU、CCU10床) 結核病床50床]

標榜科目： 内科、神経内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓内科、血液内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、形成外科、放射線科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科

開 院： 平成6年8月1日

〈基本理念〉

“神戸西地域に根づいた安心・安全な医療をめざします”

〈主な役割・機能〉

- ・国指定地域がん診療連携拠点病院 ・地域医療支援病院
- ・臨床研修指定病院 ・病院機能評価認定施設



